

広島国際学院広報

広島国際学院大学・広島国際学院大学自動車短期大学部・広島国際学院高等学校

発行者：学校法人 広島国際学院 〒739-0321 広島市安芸区中野 6 丁目20-1 ☎ (082)820-2345
〔ホームページアドレス〕 <http://www.hkg.ac.jp>



新しい学生会館 —憩いと交流の館「ほことり」—



目次

	教育改革に思う..... 1
「電子工学科から情報通信学科」へ	「特集」学生会館「ほことり」が竣成 ... 2・3
	群を抜き光彩を放つ最先端の研究 ... 4
	ハイテク・リサーチ・センター研究会を開く ... 5
	クロウジング・フェスティバル ... 5
	大学生活で私は変わった ... 6
	卒業生職場でキラリ ... 6
	社会の変化に対応した実学が中心 工学部 ... 7
	高度情報化社会をリードする 21世紀への多面的対応 現代社会学部 ... 8
	新しい形態での広島地区入試説明会 自動車短期大学部 ... 9
	高校から発信 ... 10
	研究室紹介 ... 11
	電子工学科から「メディア情報通信学科」へ ... 12
	情報工学科はコースを新設 ... 12
	大学院工学研究科に「知能情報専攻」増設 ... 12
「今度は私の番です」—本学院の高校・大学 卒業生、博士号を取得— ... 12	



教育改革に思う

学校法人広島国際学院 総長 ^{つる}鶴 ^す素 ^{なお}直

文部科学省は、2002年度から、学校完全週五日制への移行に合わせて教育改革を実施しようとしている。従来の詰め込み式の教育システムを改め、学習内容を3割削減して基礎・基本の部分にしぼり、きちんと修得させようということである。さらに、学習量を減らして生まれた余裕を「課題研究」や「総合学習」等の学習機会にあて、考える力や主体性を育成することもねらいとしている。

なぜ学校が週五日制にならなくてはならないのか。「学校が生徒を縛りすぎているのではないか」「生徒自身がもの考えることをしなくなった原因がそこにあるのではないだろうか」という考えが教育改革審議の背景にあったと聞いている。

確かに、学習内容が過密であるために、強制的にたたき込まざるを得なくなり、勉強嫌いや受け身の人間をつくってきたのではないかと思う。しかしある大手予備校は、今年実施した調査において、高校3年生の学力が4年前と比べて低下したと指摘している。また、藤沢市教育委員会が中学3年生を対象に行った2000年度アンケート調査でも、「もう勉強はしたくない」という生徒が増えているという。「新しい学力観」が打ち出されたにもかかわらず、である。子供たちが自ら考え、主体的に学ぶ姿勢を育むことは大いに賛成であるが、学力低下をもたらしたとされる「ゆとり教育」の問題にメスを入れて、多角的にしっかりと議論をしてほしいものである。

特

集

中野キャンパスに 学生会館「ほことり」が竣成



完成した新しい学生会館「ほことり」

調和の取れた外観デザイン

学院が昨年7月から進めてきた「新しい学生会館」の建設工事が完了し、見付幅約100mの威容を見せた。9月20日(木)から使用が開始され、学生の笑顔がいっぱいあふれている。

この建物は大学教育研究環境の近代化の推進と、ゆとりある憩いの空間づくりを目指し、学生のキャンパス生活の充実と、キャンパスのイメージアップをねらいとしている。学院の顔、さらには街の顔として地域の景観づくりにその役割を担っている。

工学部のある中野キャンパス10号館西側へ、周辺の緑に溶け込むように建設された。鉄筋コンクリート造り地上4階建てで、高さ約17m、長さ約100m、

延べ床面積は3,825㎡。館内はバリアフリー設計ですべての人が利用しやすいように配慮している。外壁は白色のコンクリート化粧打放しで、隣接する10号館と同じ色調で統一され、外観の連続性と調和が保たれている。アプローチも学生のくつろいだ様子が伺える開放的なつくりである。

愛称は学生から募集し、教職員も含めた多数の応募の中で検討した結果、鉾取山を向こうに望む意味から、学生会館「ほことり」と呼ぶこととした。

多彩な出会いを育むところ

★ 学生の声

- 私たち学生の強い要望であった食堂・売店・カフェテリアができるのでうれしい。
- 談話ホール・ミーティングルームなどがあるので、様々な交流を楽しみにしている。
- 授業の間に息抜きができる場所になると思う。
- 学内生活全体が楽しくなりそう。
- パソコン等も自由に利用できて便利になり、学生生活の充実感も増すと思う。

1階は、ホール・ラウンジ・売店。開放的で明るく落ち着いた雰囲気、内部には情報コンセントがあり学内外へアクセスできる。売店はコンビニ的な内容になっており、書籍販売等もある。

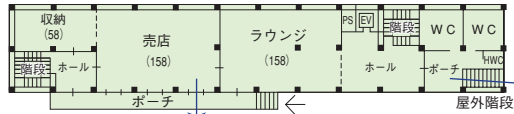
2階は、食堂・カフェテリア。インフォーマルなコミュニケーションを楽しむところとして、ゆとりのある座席配置となっている。オープンテラスとバルコニーが付いており、出入り口を別に設けてある。カフェテリア方式の採用等、混雑の解消を図っている。メニューは選択が一段と広がり、納得の価格で食事が楽しめる。

3階は、イベントホール・ミーティング室・談話ホール。やさしい色調とデザインの調度品。充実した多目的フロアとして、知的な出会いと交流の機会を与えてくれる。テラスからは鉾取山を望み、瀬戸内海に注ぐ瀬野川を眺める素晴らしいロケーションとなっている。

4階は、武道場。主に柔道場として使用する。100畳敷の広い道場である。3階イベントホールからの吹き抜け空間により、とかく窮屈になりがちなフロアスペースに余裕を持たせている。

この会館は、学生・教職員はもとより、住民の方を含めたコミュニケーションの場とすることも考えている。10月20日(土)には、周辺住民の方に感謝して、学生を中心にオープニングセレモニーを開催する予定である。

次に、学生会館「ほことり」の建物内を配置図と写真により紹介する。



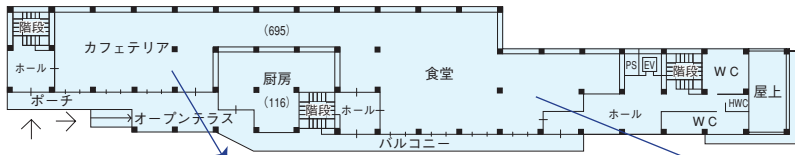
1階平面図



売店



玄関ホール



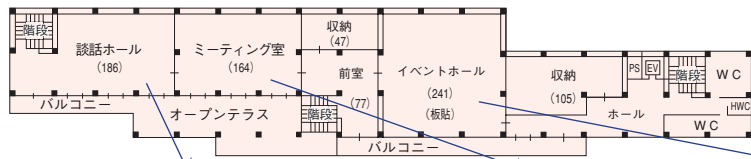
2階平面図



カフェテリア



食堂



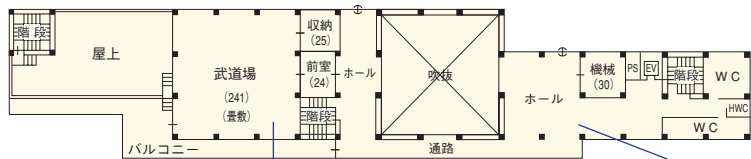
3階平面図



談話ホール・ミーティング室



イベントホール



4階平面図



武道場



ホール

群を抜き光彩を放つ最先端の研究

● 本学の科学研究



一般に、教育者になろうと自覚し大学に就職した大学教員は少ない。むしろ、自分のオリジナルな研究を続けたいと思ひ大学という場で研究し、その結果を学生に、また社会に伝えてきたのである。しかし、近年「大学の大衆化」とか「大学の全入時代」と表現されているような事態が進行し、学生たちの「知りたいこと」と教員たちが研究者として「知りたいこと」との間に大きな隔たりが生じてきた。

この結果として、最先端の研究を学部の授業でやさしく教えることは難しくなった。それぞれの教員は、自分の教育実践内容とは別の研究をし、そこに自分のアイデンティティを求めることを余儀なくされている。

以下に紹介するのは専門家としての教員の「知りたいこと」、すなわち最先端の研究である。これらは文部科学省科学研究費（以下「科研費」）の交付を受けている。「科研費」の応募・交付件数は、今や大学のランキングや信頼度を示す主要な指標となりつつある。

つまり、「科研費」の交付状況は、文部科学省が本学を教育機関としてだけでなく研究機関として認定し、研究を推進していることのあらわれと考えられる。「科研費」補助への申請は今後ますます増大するものと予想され、また、そうなることが望ましい。本学では、今年度以降も多くの「科研費」応募が見込まれている。

工 学 部

- ◎ 基盤研究 B（平成11年度～平成13年度） 葉佐井 博巳 教授（学長）
研究課題：広島原爆の中性子とガンマ線線量の実験的再評価に関する研究
- ◎ 基盤研究 C（平成12年度～平成13年度） 金持 徹 教授
研究課題：STM・CVD法による単電子トランジスターの試作
- ◎ 基盤研究 C（平成13年度～平成14年度） 李木 経孝 教授
研究課題：延性モード研削による光学ガラスの高エネルギー・高品位加工
- ◎ 基盤研究 C（平成13年度～平成14年度） 中田美喜子 助教授
研究課題：インターネットを利用した高齢者向け生涯教育の試み

平成13年度文部科学省科学研究費8件交付決定

現 代 社 会 学 部

- ◎ 基盤研究 C（平成12年度～平成14年度） 南 憲明 助教授
研究課題：標本化格子の位相変調に基づく電子透かし手法の開発と静止画像への応用に関する研究
- ◎ 基盤研究 C（平成13年度～平成15年度） 好井 裕明 教授
研究課題：「ヒロシマ」のエスノメソドロジー：映画にみる「ヒロシマ」表現の解読・その変遷
- ◎ 奨励研究 A（平成12年度～平成13年度） 田中 里美 講師
研究課題：高齢者の生活システムの再編行動に関する実証的研究：日本とフィンランドの比較調査
- ◎ 奨励研究 A（平成13年度～平成14年度） 定松 文 講師
研究課題：「低開発」悪循環モデルの検証：コルシカの地域開発を中心にして



ハイテク・リサーチ・センター 研究会を開く

日時 平成13年7月19日(木) 13時30分～16時40分
場所 広島国際学院大学 工学部 マルチビジョン講義室

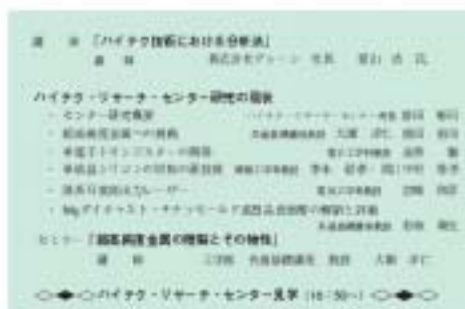
ハイテク・リサーチ・センター設立から3年になる。この間の研究成果を社会に公表し、企業と大学の双方が研究している先端技術を紹介するとともに、今後の産学共同研究へと結びつけることを目的として研究会を開催した。企業と大学からそれぞれ20名ずつの参加があった。

先端技術研究においては、共通分野でも見方は異なる。今回はその中で最も基本となる材料中の微量分析について研究開発をしている株式会社デューンの富山浩社長をお招きし、「ハイテク技術における分析法」と題して講演をいただいた。

また、本学の最先端研究の紹介を兼ねて「超高純度金属の精製とその物性」をテーマにセミナーを開いた。大園洋仁教授が講師を務めた。

引き続き、ハイテク・リサーチ・センターで行っている研究を説明紹介し、センターの設備及び実験装置の見学会を設け、相互協力・共同研究への理解を深めた。

この研究会を機に、研究の深化・拡大を図るとともに、基礎研究から応用開発研究へと指向して産学の接点を探り、相互の絆がより強まることが期待されている。



クロウジング・フェスティバル 第31回

「織姫と彦星の年に一度の再会」熱い思い

7月7日(土)、学友会体育局主催の第31回クロウジング・フェスティバルが本学中野キャンパスグラウンドにおいて行われた。

今年のクロウジング・フェスティバルのテーマは、七夕と重なったこともあり、「織姫と彦星の年に一度の再会」をひねって「祭会」とした。七夕の雰囲気を出すために、会場に笹飾りを立て、来場者に短冊を配り願い事を書いてもらった。

来場者の方から「笹が涼しげで良かった」「徐々に短冊に願い事を書いた」等の感想をいただき、たいへん好評であった。



14時の開場と同時に来場者が押し寄せ、広島文教女子大学ダンス部「ピルエット」のステージやビンゴ大会は大勢の人でにぎわった。また、エンディングの花火も七夕の夜空を素直に演出し、大盛況のうちに終了することができた。



イエー!!



“大学周辺の清掃”
住民の方へ感謝をこめて

6月29日(金)、日頃お世話になっている大学周辺住民の方々に感謝し、あわせてクロウジング・フェスティバルへの参加を呼びかけるために、清掃作業を行った。

大学生生活で私は変わった

ボランティアの経験

毎日が楽しいニコニコライフです

情報工学科4年生 日下部 ^{くさかべ} たか子

私は愛知県からこの大学に来ました。地方での初一人暮らし。いろんな期待でワクワクし、たくさんの不安でドキドキしていました。あれからもう3年が過ぎて、私も4年生になりました。4年なんてすごく長いと思っていましたが、過ぎてみるとあっという間です。振り返ってみると、いろいろありました。念願だったボランティアをしたり、生まれて初めての海外旅行をしたり。4年弱の短い間に、今までにないたくさんの経験をしてきたと思います。

ボランティアでは、小中学生のキャンプの手伝いとして、裏方の仕事を中心にやっていました。活動の企画から準備・片付け、講師として来てくださった先生方の補助、さらには子供の相手まで。人見知りですが、特に子供が苦手だった私が、この作業を通じて他のボランティアの学生さんはもちろん、子供とも楽しく接することができました。人見知りもだいぶ克服しました。

海外旅行ではイタリアに行きました。1世紀頃からのとても古い建物が現代まで残っているなんてすばらしいと、泣きそうなくらいに感動しました。私もこの建物みたいに、未来に名を残すようなすばらしい人間になるぞと、一人で大きすぎる決心をしてみたりしました。

たったの4年でこんなにも自分でも驚くくらい、いい意味で私という人間は変わることができたような気がします。

そんな私の学生生活は毎日が楽しいニコニコライフです。



もっと勉強したいコンピュータ

卒業生職場でキラリ



本屋全体

仕事を成し遂げる達成感！ - 自己コントロールする意志力が大切 -

情報工学科 平成10年度卒業

原園 ^{はらその} 政孝 ^{まさたか}

現在、富士ソフトABC(株)鎌倉事業所ビジネスシステム部に所属しています。担当業務はソフトウェア開発です。6人程度のプロジェクトの中で、上司や先輩方の指示のもとに働いています。

今は特にインターネット関連の仕事が多く、主としてVisualC++を使用したプログラミングを行っています。他にUNIX関連の仕事などもあります。

入社3年目で技術的にもまだまだ不十分なため、仕事を進めると同時に勉強しているという状態です。それでも入社時と比べれば着実にレベルアップしていると感じます。

勤務が深夜に及ぶこともまれではありません。きわめて多忙な業界です。しかし時代の先端にいるという自負心に加え、仕事をやり遂げた時の達成感があります。将来的には自らプロジェクトの中心になって仕事を進めていきたいと思っています。

入社以来、勉強不足を痛感しています。在学生の皆さんはしっかり自己コントロールしてください。





植物とのおしゃべり

■ 学問ワンダーランド

高度な研究内容を 学生が中心となって紹介

6月10日(日)、恒例の「学問ワンダーランド(河合塾主催)」が開催された。高校生・受験生向けに大学の教育・研究内容を紹介するイベントである。河合塾広島校を会場に30大学が参加し、全体で60テーマにのぼる展示や講演が行われた。本学工学部も工夫を凝らした内容で参加者の関心を集めていた。特に携帯電話に関するコーナーは親しみやすさもあり、人気が高かった。主催者によると当日は1,000人を越える入場者があった。工学部から出展したのは次の5テーマである。



電気自動車?

1. 「インターネットでロボットを遠隔制御してみよう！」(神垣研究室)
2. 「Javaによる携帯端末の可能性」(鵜根研究室)
3. 「植物とのおしゃべりー植物信号の検出と解析」(遠藤研究室)
4. 「金、アルミニウムを超高真空中で溶かす」(前田・藤井研究室)
5. 「学習支援教材(電気工学)」(歌谷研究室)

工学部

社会の変化に対応した実学が中心

■ オープンキャンパスを開く

参加者の好感度は高い



熱心に説明を聞く

7月29日(日)、第一回オープンキャンパスが開催された。県内外から昨年を上回る高校生たちが訪れ、パンフレット片手に希望の学科・施設・研究室を見学した。工学部では14の研究室と3つの実験施設を公開し、教員、大学院生らが日頃の研究活動を紹介した。担当者からの説明に熱心に耳を傾ける生徒が数多く見受けられた。ハイテク・リサーチ・センターでは、世界最高水準の高純度金属精製の説明を受け、精製された金属に触れた。生徒たちは、その輝きに驚きを隠せない様子であった。本年度は、第二回のオープンキャンパスを9月30日(日)にも予定している。新しい学生会館のオープン、学内福利厚生施設のリニューアルなど新しい話題は絶えない。



茶道部学友会デビュー



七夕茶会

■ 一期一会 茶道愛好会です

初めまして。5月から活動をしている表千家茶道愛好会です。部員は現在のところ、部長の情報工学科3年吉清直子をはじめ5名です。毎週水曜日午後4時半から10号館1階でお稽古をしています。顧問の檜高靖治先生は、「礼儀作法は全ての第一歩ですからね。活動をとおして身につけていってほしいものです。いいことですよ」とエールを送ってくださいます。

今後私達は、合宿や縮景園のお茶会など数々の経験を積み、11月の学園祭にのぞみます。

興味のある方はお稽古日にのぞいてみてください。一服さしあげます。四季折々の茶花を知り、季節ごとにしつらえる焼物・塗物等のお道具を拝見し、他大学との交流会をとおして総合的な文化を学び、インターネットで茶仲間と知識を深め高めあっていききたいものです。

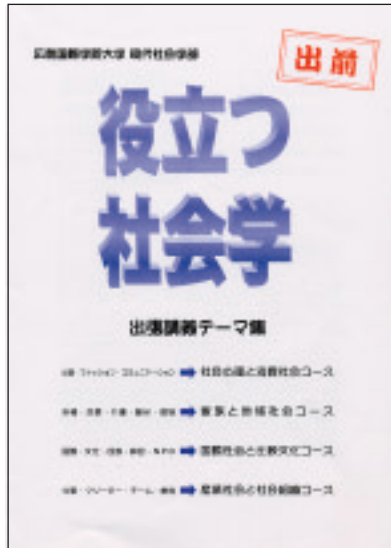
そして何より、茶道で学んだ礼儀作法をこれからの就職活動に役立てていきたいと思えます。

現代社会学部

高度情報化社会をリードする

21世紀への多面的対応

大学



役立つ社会学—出張テーマ集

★ 出張講義テーマ集『役立つ社会学』 社会学ってなんだろう？

最近、高校の進路指導の一部に「体験講義」が定着しつつある。簡単な講義形式で学問内容を紹介し、イメージだけでなく体験的に進路を決定させようとする取り組みである。本学現代社会学部は、中四国において唯一の本格的な社会学部ということもあり、今まで何度となく県下の高校に出張講義を依頼され、高校生に社会学を紹介する好機に恵まれてきた。

どのような学問でも同様であるが、社会学を知らない高校生に社会学とは何か説明することは非常に難しい。しかしこの体験講義では、恋愛、学歴主義、フリーター、携帯電話といった身近なテーマをとりあげて、社会学の視点ではどのように考えるかを紹介する。高校生にも先生方にも「わかりやすい」「社会学でこんなテーマが学べるとは思わなかった」と好評をいただいている。

そこで、現代社会学部ではこのたび『役立つ社会学—出張講義テーマ集』というリーフレットを作成した。社会学ではどのようなテーマで学ぶことができるか、どのような出張講義が提供できるかを示した。作成したリーフレットは高校に送っている。もちろん生涯学習の観点から、公民館や地方ホールでの公開講座にも対応する予定である。「社会学ってなんだろう」という素朴な疑問をおもちの方は、是非手にとっていただきたい。講義の依頼を心よりお待ちする。

夢は学ぶことそのものの中にある

★ 現代社会学部のオープンキャンパス パソコン体験講義・社会学体験ゼミ 好評！ 在学生が案内役をつとめた学内ツアー

晴天に恵まれた7月14日(土)・29日(日)の両日、現代社会学部でオープンキャンパスが行われた。

新学部長のあいさつの後、共通基礎科目である英語およびコミュニケーション基礎、現代社会学部の特色である社会調査士に関する紹介があった。続いて「家族とコミュニティ」、「生活文化と消費」、「国際化と比較社会」、「産業と組織」の4コースの教員が、現代社会学部では何を学べるのかについて具体的なトピックを交え説明した。その後高校生は、ネイティブの教員による英語、パソコン体験講義および社会学体験ゼミを受講した。好評だったのは在学生が案内役をつとめた学内見学ツアーで、高校生との間に本音の会話が生まれたようだった。最後に、現代社会学部の教員・職員による入試や学生生活等に関する親身な個別面談があり、参加した高校生、保護者の方々は「聞きたいことが聞ける」と熱心に聞き入っていた。参加者は教員や職員、在学生と直接話をして大学のことが知りたいのだということがアンケートの結果からもわかった。

14日には広島市内の高校から多数の二年生の参加があり、また、29日は夏休みということもあってか県東部および岡山県、山口県からの参加者がみられた。高校教員、保護者も訪れ、徐々にではあるが本学部のカリキュラムの充実度が浸透してきていることを感じた二日間であった。



短期 大学部

新しい形態での広島地区入試説明会



活気にあふれた短大部の分科会

7月6日(金)、広島地区の高校進路担当者対象の入試説明会が、上瀬野キャンパスの現代社会学部校舎で開かれた。従来は市内ホテルで全体会と懇親会を行っていたが、本年度は現代社会学部の紹介を兼ねて上瀬野キャンパスでの開催となった。

全体会で各学部の入試説明の後、学部毎に三会場で行われた。

短期大学部では、次の内容について説明、質問がされた。

- ・事前教育と基礎数学の習熟度別授業について
- ・特待生制度、留年・退学者の推移について
- ・カリキュラム、単位認定方法について
- ・二級自動車整備士並びに、就職指導の活動計画 について

アンケートの中に、「分科会は誠意のある説明会でした。生徒に、安易な受験態度ではいけないことを伝えたい」という感想もあった。本学部の教育、指導に関して高校の先生方に理解を深めていただいたことは大きな収穫であった。

実習設備紹介シリーズ②

★コンピュータ・コントロール・エンジン・テスト

デジタル・ディスプレイを使ったエンジン診断機で、点火波形やインジェクタ波形等の測定が可能である。その波形や測定データをプリントアウトすることができる。

●測定対象車

1. 2/4サイクル車、ロータリ・エンジン車
2. 1~12気筒の車

●主な測定項目

1. イグニション・コイル一次、二次電圧波形
2. エンジン回転数
3. イグニション・タイミング
4. シリンダの比較
5. インジェクタ噴射波形
6. 電圧、電流、抵抗
7. 温度(エンジン・オイル)



車の好きな人が

いっぱい集まった!!

—自動車短期大学部のオープンキャンパス—



エンジン作動

7月29日(日)、恒例のオープンキャンパスが上瀬野キャンパス短期大学部で開催された。指定校訪問でのPR効果で、高校生59名、保護者30名が参加するという盛況ぶりだった。

・午前中には、関係教員が本学部の概要、入試、進路の説明をし、在学生在が体験報告を発表した。

・午後からは、スタンプラリー式学内見学とクイズゲームが実施された。

- ・学内見学のアンケートによると、エンジンの作動、走行性能診断装置による試乗テスト、日常点検、電気自動車の試乗などを実際に体験して、ますます自動車が好きになったようである。
- ・クイズゲームでは、本学部に関するクイズに参加者全員が正解するという好結果で、本学部がよく理解されていることが分かった。
- ・今回のオープンキャンパスで特筆される点は、アンケート回収42名中、本学部の推薦入試を受験したいという生徒が34名もいたことで、有意義なイベントであったと言える。



キラキラ見学者の目



楽しいクイズゲーム

高校から発信 快挙！全国制覇

自転車競技インターハイ優勝

学校対抗で団体優勝(ロードレース)

3年前にも、個人では西谷君が全国優勝を果たしているが、今回は学校対抗団体において全国制覇するというかつてない快挙を成し遂げた。全国高校総体で団体優勝するのは本校にとって初めてのことであり、絶賛に値する。



- ◎ロード競技学校対抗
優勝 広島国際学院高等学校
- ◎ワンデイロードレース(89.2km)
第一位 松下善紀 2時間21分59秒4

松下善紀君個人優勝(ワンデイロードレース)

今年度の全国高等学校総合体育大会は、熊本県において開催された。この高校総体に出場している本校の自転車競技部の松下善紀君(3年生)は、ワンデイロードレース(89.2km)において、全国の強豪を打ち破り見事優勝した。このロードレースは425mの高差のある難コースで、松下君は途中でペダルが緩むなどのアクシデントに見舞われながらも執念で優勝を勝ち取った。また、隅田幸助君(3年生)も第4位に入賞するという素晴らしい成果を挙げた。

堂々！8強に進出

全国高等学校野球選手権 ◆ 広島県予選大会 ◆



夏の全国高等学校野球選手権広島県予選は、7月14日(土)開幕した。本校の初戦は、開会式直後の開幕試合という大観衆の中での試合であった。対戦相手は最近急速に力をつけてきた美鈴が丘高校である。開幕戦という緊張からか、いつもの実力がみられず苦戦が続いたが、11対9の逆転で逃げ切った。2回戦は吉田高校との対戦であった。初戦の緊張からときはなされた選手達はのびのびと戦い、3本の本塁打も飛び出すなど13対2のスコアで勝利する。3回戦の明王台高校、4回戦の誠之館高校

にもコールド勝ちと破竹の勢いで、見事にベスト8に進出した。準々決勝戦は、今大会第1シードの強豪広島商業高校との対戦であった。初回に先制するも相手強打線の前に逆転を喫し無念の敗退をした。いつものながら、本校の試合では、吹奏楽部や多くの生徒、保護者、OBと大応援団の声援が球場内にこだまし、試合を盛り上げている。



も第4位に入賞するという素晴らしい成果を挙げた。

工学部

情報工学科

あお い ひで き
青井秀樹 研究室

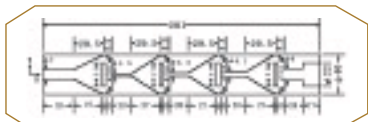


当研究室では、数値シミュレーション技術の研究を行っている。CAE(Computer Aided Engineering: コンピュータ支援工学)の研究とも言える。私は日立製作所原子力開発部入社以来、コンピュータシミュレーションによる工学設計を20数年行ってきた。8年前に当大学に移って以来、学生の教育を兼ねて実学を目指した研究を行っている。

1. 花粉捕集装置の開発

春になると花粉症で悩む人が年々増加している。空気中に漂う花粉の種類・個数を知るため、流体力学に基づいて花粉捕集装置を開発している。

左から空気を吸入すると、右から花粉を含んだ空気が吸入される。各段のノズル直径は後段にゆくに従って徐々に小さくなっており、空気の流速は徐々に速くなる。大きい花粉は前段に、より小さい花粉は後段に吸着される。このようにして、マツ、

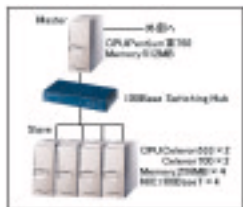


花粉捕集装置

ブナノキ、スギ、ハンノキ花粉を分離・吸着することが可能となった。現在、さらに性能向上を図っている。

2. 並列コンピュータの開発

流体解析、構造解析など数値シミュレーションを実施すると計算時間が膨大になる。パソコンを用いた並列計算機を構築することにより計算時間の短縮を図る。Linux OSを用いた8



並列コンピュータ

CPUの計算機システムにより約300MFLOPS(1秒間に3億回の浮動小数点演算)が到達できた。これは25年前に登場した初代スーパーコンピュータ(約30億円)の2倍の性能である。今年度は16台の並列

計算機を構築する予定である。

3. その他

物質の分子動力学解析、遺伝子アルゴリズム、地震解析、衝突解析、レンズによる太陽熱利用計画などを行っている。

現代社会学部

なか がわ さ なえ
中川早苗 研究室



1970年に浜野安宏はその著『ファッション化社会』の冒頭で、「すべての商品はファッション商品となる、すべての産業はファッション産業となる、すべてのビジネスはファッションビジネスでなければならない」と述べている。絶えず進歩、発展をめざしてめまぐるしく変化する現代の社会はますますその傾向を強

めているといえよう。当研究室では、このような現代社会におけるファッションの特質や構造、ファッションと世相との関わり、マスコミュニケーションがファッションに及ぼす影響、ファッションに関わる現代人の心理的なメカニズムなど、ファッションが現代社会において果たす役割や、現代人にとってのファッションが持つ意味について、理論と実証の面から追求している。

講義では3年生を対象にファッション論とライフスタイル論を担当。その他に1年生のプレゼминаル、3年生の社会学演習を担当している。

研究室は、学部内では人と人とのつながりや文化の日常的な役割について考える「生活文化と消費」という分野に所属し、現在7名の学生がゼミで研究に取り組んでいる。テーマは「20世紀ファッションの社会的・文化的意味について」、「ファッションの採用者カテゴリーとライフスタイルとの関連について」、「ファッションの採用動機とパーソナリティとの関連について」などである。どのような成果が得られるのか楽しみである。



大
学

研究室紹介

電子工学科から

「メディア情報通信学科」へ

情報通信社会をリードする技術者を創る

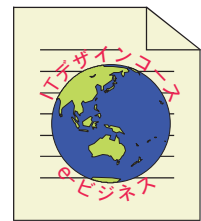


「メディア」とは情報を伝えるための「媒体」、すなわち通信手段を意味する。たとえば光ファイバーネットワーク、通信衛星、インターネットなどの基盤となる通信設備も「メディア」としてとらえることができる。

電子工学科では通信技術に対する需要の拡大および技術の発展に鑑み、「メディア」を扱うことのできる技術者を創りあげていくことが重要と考えた。この方針をより明確にアピールするために、名称を「メディア情報通信学科」に変更した。従来のカリキュラムを大幅に見直し、学科一丸となって再出発する決意をした。

情報工学科はコースを新設 IT革命時代の情報デザイナーを育てる

本学科では来年度、情報デザインに挑戦する人材育成を目標として「ITデザインコース」を新設する。情報デザインとは、コンピュータとネットワークが充実しつつある環境を飛び交う「情報」を主体的に的確にとらえて活用する人間社会共有の仕組みを作ることである。近年、ウェブ(Web)サイトやその他の対話型メディアのデザインがインターネット上での経済活動の盛り上がりともあいまって注目を集めている。今後情報技術(IT)が進展すれば、多くの分野で情報デザインに関する技術・感覚を身に付けた人材がますます必要になる。この分野は従来の工学的技術とはやや異なる人間工学的センスが要求される。本学科ではWebデザイン、Webシステム、さらに電子ビジネスに関する基礎等を修得する内容を準備し、新しい分野に挑戦する若い人を待っている。



ITデザインコースでは、地球を囲むネットワーク上に商店街を作るe-ビジネスのデザイナーを育てます。

●●●●●平成14年度 大学院工学研究科に「知能情報専攻」増設(設置認可申請中)



今度は私の番です!

今年3月に博士号を取得したばかりで、4月から本大学の非常勤講師として学院に帰ってきた竹野さん。「もうだいぶ昔の話になりますね」とそのユニークな経歴を話してくれた。昭和63年3月に、本学院高等学校の前身である広島電機大学附属高等学校普通科を卒業、広島電機大学(現広島国際学院大学)電子工学科に進学した。一年次の一般教養課程である化学実験が運命的出会いとなった。

実験担当教員だった佐々木健先生(現大学物質工学専攻教授)と自然環境について話したのがきっかけで、たちまち意気投合。以前より環境・生物に関心があったということもあり、佐々木先生が主宰する学内環境教育グループ「広島銘水研究会」に翌日入会した。専門の勉強もそっちのけで化学実験室に通いつめ、水質分析を中心とする研究に打ち込ん

「大学院物質工学専攻平成10年度卒業」
本学院の高校・大学卒業生、博士号を取得
竹野健次さん!

だ。結局卒業後も、当時バブル期にあった電気・電子関連企業を袖にし、環境調査会社の分析員として就職した。

これでもまだ落ち着かず、「もう少し勉強してみたい」と退職する。平成8年4月、本学大学院修士課程・物質工学専攻(生体材料)に入学し、再び佐々木教授の門下に入った。そして、広島湾の海底汚泥を微生物で浄化する研究に没頭し、研究成果は生物工学会英文誌に発表された。修士課程修了後は、広島大学大学院工学研究科博士後期課程へと進学した。さらに研究を続行し、平成13年3月、本学院の高等学校・大学を卒業した学生としては初めて博士号(工学・広島大学)を取得した。「今までこの学園で丁寧、かつ適性に合った指導をしてもらった。今度は私の番です。本学院は詰め込み教育ではありません。ゆとりのある学園生活の中で、自分の好きな勉強、スポーツの分野に思いっきり打ち込んでほしい」。様々な経験を経て、この春から後輩の指導へと、竹野博士は期待と不安の教壇に立つ。